

しのろ紙袋ランタンまつり



私が思う、
北区の魅力・好きな場所

みんな地元愛が強く、下町のような近所付き合いも残る人情あふれるエリア。とにかく温かいまちです。お薦めのスポットは「篠路五戸の森緑地」。地域の子どもたちは、探検学習などで必ず訪れる場所です。住宅街にありながら、豊かな自然が残る篠路のオアシス。

「しのろ紙袋ランタンまつり」実行委員会
委員長 遠藤 愛美さん

札幌市北区篠路生まれの篠路育ち。大学卒業後、信用金庫に入庫。夫と二人暮らし。

「篠路地区が大きく変わることで、この変革期をチャンスと捉えて、幅広い世代が集つ場や機会を創出したい」。そう語るのは「しのろ紙袋ランタンまつり」の実行委員長を務める遠藤愛美さん。

「若い世代にまちづくりを担つてもらいたい」ということで引き受けた大役ですが、最初は分からぬことだらけでした。周りの人たちに教わりながら、少しずつ自分が役割を果たせるようになってきたかな、と思ったところに「コロナ禍」。祭りは3年間中止を余儀なくされました。

地域の子どもたちがお祭りをしてもらうきっかけづくりも遠藤さんの大切な仕事です。

「授業でランタンの制作体験をしてもうたり、まちづくりの活動についてお話しをする機会をいただいたり…学校側の協力なくして実現

しのろ紙袋ランタンまつり
問い合わせ／篠路コミュニティセンター
北区篠路3条8丁目11-1
TEL.011-771-3700
※2023年は中止が決定。

できないことばかりなので、感謝の気持ちでいっぱいです」。こうした活動によって、初めてお祭りのことを知る子どもも多いと言います。ランタン作りやボランティアに参加した思い出がない地域をつなぐ絆になるはず」。職場の理解や、「ミニユーニティセンターの職員として働くお母さんの支えも活動の後押しに。「また状況が落ち着いたら、祭りの開催を中心としている人たちのために、頑張ります！」と笑顔で語ってくれました。



新型コロナウイルス感染症拡大前の2020年冬に開催された祭りでは、約2000個もの紙袋ランタンがまちを彩りました



JR篠路駅の高架化によって、まつりを通して「絆」の輪を広げたい。

変わるものの中に賑わいを。

現在、JR篠路駅周辺では鐵道を立体（高架）化し、踏切をなくすことでスマートな交通の実現とまちの活性化を図る事業が進められています。これに伴い、駅周辺の道路整備なども行われ、地域の交流拠点にふさわしいまちづくりを推進する動きが活発に。一方で、地域主体のまちづくり活動やイベントをいかにして実現し、まちにぎわいを創出するかという課題も浮き彫りになりました。

そこで「篠路まちづくりワークショップ」のメンバーらが着目したのは、2016年から篠路コミュニティセンターの敷地内で開催されていた「しのろ紙袋ランタンまつり」。手作りした紙袋のランタンに火をともし、冬空を彩る幻想的なイベントです。これを駅前で開催すれば、多くの人が集い、まちにぎわうきっかけになるのではないかというアイデアから準備がスタート。2023年の冬も残念ながら中止となりましたが、2024年の冬こそ4年ぶりの開催を目指します。